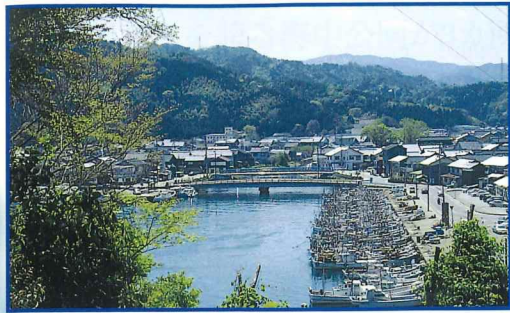


岡見公園のふもと
2つの港に面した漁師町
風、香り、音を感じて歩く

裏路地探険

潮風が吹き抜ける路地／香住町



岡見公園から見下ろす東港周辺の町並み。

ひといち 香住町一日市

岡見公園のふもと、大きな電球をつけたイカや1本釣りの小型船が碇泊する東港と沖合漁業へ出かける大型船で賑わう西港に隣接。干し物・練り・焼きの水産加工場も多く、漁業と深い関わりを持つ。



加工場を見学する探険隊員。扉を開けるとおいしいそうな魚の匂いがいっぱいにひろがる。手際の良い仕事ぶりに感心しきり。新鮮でまるまるとした素材にもびっくり。魚の良さを再認識。



カニの加工場を見学、カニの身が見事に取り出される。

加工場に山積みされたトコ箱。民家の軒下にも違和感なく並ぶ。

朝4時に起きて、準備にかかるというおばあちゃん、87歳。

北防波堤

遊覧船乗り場
三姉妹船長で有名。現在は親子二代、6人の美人の船長さんが揃う。風光明媚な山陰海岸のクルージングへと案内してくれる。

町中で干物の発見(右)
季節に応じてカレイ、イカなども干される
岡見公園のお地藏さま(左)



橋の歩道に描かれたカニの絵

青い海にこんもりと突きだした岡見公園のふもと、ひといち地区を歩く。戸数305軒、民家が密集し商店街が続く町並みの中にあり、香住漁港・東港、西港2つの港に面した漁業と深い関わりを持つ漁師町。香住の漁業の歴史は、記録に残されているものが少なく、本格的な港として整備されたのは明治からとされているが、現在では日本海屈指の大規模魚港としてその名を知られている。

東港はイカや一本釣りの小型船が碇泊し、西港は沖合漁業に出

かける大型船で賑わう。沖合では、朝鮮海峡、隠岐・能登沖などへ100tの大型船で繰り出し、近海では、イカやハマチ、ブリ、鯛の一本釣りの小型船が日帰り操業をおこなっている。夏の風物詩として有名な漁り火も、このイカ釣り漁によるもの。夕方5時頃に出港、沖合約30キロメートル付近で、1個3キロワット、15〜18個の大きな電球に、まばゆいばかりのあたりを灯し、一晩中漁をおこなう。翌早朝に帰港する。

漁師町には、独特の生活リズムがある。朝5時にサイレンが鳴り、水揚げの準備、市場のセリと慌ただしい時間を刻む。一方、昼間は漁師さんたちが休養を取る時間、子供たちも路地で遊ぶことを控え、人気の少ない不思議な静寂さが保たれている。

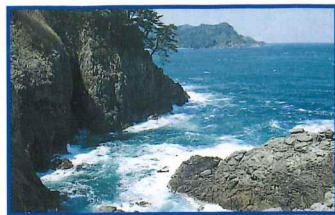
また、干し物・練り・焼きなどの水産加工場が多いのもこの地区の特徴。加工場の扉を開けると魚の匂いがいっぱいにひろがる。白い

長靴、大きなビニールのエプロン姿のおかあさんたちが、どつかと積まれた魚を手際よく捌いていく。一様に、テーブルの隅には、水を張った缶が置かれ、指先が冷たくなると浸し、根気のいる作業を支えている。

カレイやハタハタ、キス、イカ、カニなど、いろいろな素材が、加工場によって、干し物、蒲鉾や竹輪の練り物、焼き魚、調理用食材などに加工され、地元をはじめ京阪神、東京方面へと出荷されていく。それぞれ、独自の屋号と商標マークを持ち、加工場の表札に掲げられている。

また、一日市をはじめ香住町の象徴的な存在となるのが岡見公園。海風から町並みを守るように突きだした小高い丘。黒松の林、八坂神社の鎮守の森、白い波の泡が打ち寄せる断崖絶壁、風光明媚な散策が楽しめる。春は桜、6月中旬〜8月下旬は、夕日に向かってユウスゲの花が咲く。石碑や石仏も多い。香住西国八十八カ所のお地藏様、第二次世界大戦終戦前日に香住沖で撃沈された海防艦の鎮魂碑。イルカを退治した鎌足さんを祀る岩。(曾我入鹿を退治

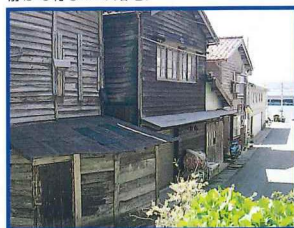
香住町海の文化館や朝市センターイカ焼きや干物などを扱う加工団地へ



岡見公園から。断崖絶壁に白い波の泡が打ち寄せる。



案内をしていただいた長昌男さん(上)と駒居繁善さん(下)。ユウスゲの保護や祭りのお世話など地域活動に活躍。



●裏路地探検隊員募集
8月19日(土) 美方町新屋 探検
但馬牛を飼う山間の集落を歩きます。
*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編
集部へ住所・氏名・年齢・電話番号を記入の上、
ハガキでお申し込みください。

波の彼方から真つ直ぐに吹いてくる風。ほのかな潮の香り、路地からは、魚を蒸したり焼いたりする匂い。港では、岸壁に打ち寄せられる波、碇泊している船のロープがきしむ音。五感を研ぎ澄ましてこの町を歩くと面白い。
さらに、威勢の良い漁師町の気質を感じるなら、勇壮な御輿が繰り出す夏祭り、秋祭りに出かけてみるのがおすすすめだ。一日市の人たちの祭りにかける思いは熱い。ふるさとへ帰ってくる人、近隣の人々で賑わい、町も人も熱くなる。
これからの季節はユウスゲの花も美しく、漁り火も幻想的。夕暮れに潮風に吹かれてみるのも良さそうだ。
協力：香住町・一日市のみなさん
・[夏祭り] 7月15日(土)～16日(日)
・[秋祭り] 9月29日(金)～30日(土)

した藤原鎌足は漁場を荒らすイルカをも退治してくれたという所(から)。海辺の町ならではの、さまざまな伝説や物語を語り継いでいる。
波の彼方から真つ直ぐに吹いてくる風。ほのかな潮の香り、路地からは、魚を蒸したり焼いたりする匂い。港では、岸壁に打ち寄せられる波、碇泊している船のロープがきしむ音。五感を研ぎ澄ましてこの町を歩くと面白い。
さらに、威勢の良い漁師町の気質を感じるなら、勇壮な御輿が繰り出す夏祭り、秋祭りに出かけてみるのがおすすすめだ。一日市の人たちの祭りにかける思いは熱い。ふるさとへ帰ってくる人、近隣の人々で賑わい、町も人も熱くなる。
これからの季節はユウスゲの花も美しく、漁り火も幻想的。夕暮れに潮風に吹かれてみるのも良さそうだ。
協力：香住町・一日市のみなさん
・[夏祭り] 7月15日(土)～16日(日)
・[秋祭り] 9月29日(金)～30日(土)